

*** 今日の健康(10月) ***

< 2026年9月東京のコロナの発生状況と変異株 >

2026年はインフルエンザウイルス感染症が早い時期から感染が広まっており、東京都が9月17日にインフルエンザ注意報を発出したこともあり秋から冬に向けてコロナ感染症と同時流行が憂慮されます。

2026年9月における東京都内の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生状況について都内の指定医療機関(定点)当たり報告数(推移)は9月中を通して緩やかな増加傾向または微増傾向が見られました。

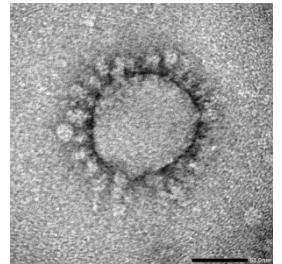
第36週(8月31日～9月6日): 1.84人 / 定点

第37週(9月7日～9月13日): 2.41人 / 定点

第38週(9月14日～9月20日): 2.92人 / 定点

数字としては急激な爆発的流行というわけではありませんが、週を追うごとに右肩上がりに推移しています。

コロナ感染症は5類移行後も定点把握によるモニタリングが続いていますが、季節の変わり目で体調を崩しやすい時期、空気の乾燥や朝晩の冷え込みも増してくる頃ですので、引き続き基本的な体調管理やこまめな換気などが必要です。



(アルファ株の電子顕微鏡写真)

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の変異株

新型コロナウイルスは、遺伝情報としてRNAを持つウイルスです。複製(増殖)の過程でコピーミス(変異)が比較的高頻度に関わり、ウイルスの表面にある「スパイクタンパク質」などの構造が変化することで新たな「系統(変異株)」が次々と派生します。

初期に見られた「アルファ株」や「デルタ株」を経て、現在世界および国内で主流となっているのは、「オミクロン株(B.1.1.529系統)」の各種亜系統です。

オミクロン株以降の特徴として、従来株に比べて免疫逃避能(過去の感染やワクチンで得た中和抗体をすり抜ける性質)が段階的に高まっており、これが数カ月単位での流行の波を引き起こす要因となっています。

近年は、ニンバス(NB.1.8.1株)やセミ型(BA.3.2株)、さらにそこから派生した系統などが確認されており、上気道(特に上咽頭)での強い炎症や激しいのどの痛みを伴うケースが報告されています。一方で、ウイルス自体の致死性や重症化率が過去の株に比べて特異的に高くなっているというエビデンスはありません。

症状の変化: 咽頭痛、発熱、倦怠感などが中心であり、かつて特徴的とされた味覚・嗅覚障害の頻度は相対的に低下しています。

治療薬の有効性: ウイルスの増殖メカニズム(3CLプロテアーゼなど)をターゲットとする主要な抗ウイルス薬ゾコバ(エンシトレルビル)やパキロビッドパック(ニルマトレルビル/リトナビル)などは、変異株に対しても引き続き有効性と機序を維持しています。

予防接種ワクチン: 流行の中心となる変異株の系統変化に合わせて、ワクチンの抗原株も定期的に見直しがおこなわれアップデートが行われています。